

1～9月は4%減の996万TEU

■5大港、3年ぶりに1000万TEU割れ

5大港（東京港、横浜港、名古屋港、大阪港、神戸港）の2023年1～9月累計の外貿コンテナ取扱量（最速報値、実入り・空コンテナ合計）は、前年同期比4.2%減の996万TEUだった。今年上半期（1～6月）時点からマイナス幅は拡大した。1～9月実績としては3年ぶりに1000万TEUを割り込んだ。欧米の過剰在庫や、中国の生産・消費回復の遅れなどによる世界経済の減速が荷動きの鈍化につながっていると見られる。

各港湾管理者が今月6日時点で公表している港湾統計（9月のみ最速報値）を基に、本紙が5大港の外貿コンテナ取扱量をまとめた。実績は表のとおり。5大港合計の輸出は4.0%減の494万TEU、輸入は4.3%減の503万TEUだった。港別では、上半期に続いて横浜港が輸出、輸入、輸出入合計の全てでプラスを維持した。他方、その他の4港は輸出、輸入、輸出入合計の全てでマイナスとなった。上半期は輸入でプラスだった神戸港もマイナスに転じた。

東京港は輸出、輸入、輸出入合計の全てにおいて5大港で最も前年同期比の減少幅が大きかった。外貿コンテナ貨物の輸出では、主力の産業機械やその他化学工業品の取り扱いが減少し、輸入は衣服・身廻品・はきものや製造食品が低調だった。また国・地域別（トンベース）では、輸出で米国向けやベトナム向けが伸長し

港	合計	前年同期比	輸出	前年同期比	輸入	前年同期比
東京港	3,025,365	▲8.5	1,386,490	▲8.7	1,638,875	▲8.4
横浜港	1,968,573	1.2	1,042,015	0.9	926,558	1.6
名古屋港	1,856,801	▲1.4	963,317	▲1.4	893,484	▲1.5
大阪港	1,479,076	▲7.0	680,831	▲6.6	798,245	▲7.4
神戸港	1,634,011	▲2.1	866,096	▲2.7	767,915	▲1.5
5大港合計	9,963,826	▲4.2	4,938,749	▲4.0	5,025,077	▲4.3

た一方、中国向けは減少した。輸入は中国発、米国発、タイ発などが低調だった。

横浜港は5大港で唯一、輸出、輸入、輸出入合計でプラスとなった。外貿コンテナ貨物の輸出では、完成自動車が増加した一方、自動車部品や染料等化学工業品の取扱いは減少した。輸入は主力の製造食品や野菜・果物などが低調に推移した。国・地域別（TEUベース）では、輸出で中国向け、韓国向け、タイ向けなどが低調だった。一方、輸入は中国発が堅調に推移し、米国発やメキシコ発も好調だった。

名古屋港は輸出、輸入、輸出入合計の全てでマイナスとなったものの、上半期時点からは減少幅が全て改善した。外貿コンテナ貨物の輸出では、自動車部品や産業機械が低調だったが、完成自動車が大きく伸びた。輸入は自動車部品が好調だったが、衣服・身廻品・はきものは低調だった。国・地域別（トンベース）では、中国向け、米国向けが低調だった一方、タイ向けが好調だった。輸入はベトナム発やタイ発が堅調に推移し、中国発が低調だった。

大阪港は輸出、輸入、輸出入合計の全てでマイナス幅が拡大した。外貿コンテナの輸出では、主力の染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品や産業機械の取り扱いが減少した。輸入は電気機械が減少し、衣服・身廻品・はきものや染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品も低調だった。国・地域別（トンベース）では、輸出で中国向けや台湾向けが落ち込んだ。輸入は中国発、韓国発、台湾発が低調だった。

神戸港は、輸出、輸入、輸出入合計の全てでマイナスとなった。外貿コンテナの輸出では、産業機械が増加した一方、染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品が低調だった。輸入は衣服・身廻品・はきものが落ち込んだ。国別（TEUベース）では、輸出で中国向けや韓国向けが減少した。輸入は米国発や韓国発が好調となった一方、中国発は低調だった。

また、第3四半期（7～9月）で見ると、5大港の外貿コンテナ取扱量は前年同期比5.3%減の335万TEUだった。輸出は6.1%減の164万TEU、輸入は4.6%減の171万TEUだった。